

なごやぬいぐるみイオン実施報告書

文責：畑下直

連絡先：nhatt222@gmail.com

●実施概要

- ・実施日：2012年12月4日
- ・活動場所：イオンモール熱田
- ・当日参加した学生の人数：15人
- ・子どもの人数：15人ほど
- ・活動時間：15:00～19:30
- ・活動内容：ぬいぐるみ病院、小児科活動、町のお医者さん（子どもが医師役）、その他（）
- ・保健教育テーマ：「風邪」（当日は参加した子どもが少なく行えませんでした）
- ・当日の流れ（園児の動き、学生の動きが分かるように）

時間	行ったこと
13:30	集合
13:30～	準備
15:00～	実施
19:30～	片付け
20:00～	反省会 解散

●準備について

- ・今回の準備に向けて初めてMTGを行った日：11月7日
- ・準備に来た学生の人数：1日平均10人
- ・当日までの準備の日程・内容

日程	話し合ったこと、準備したもの
10月中旬	イオンで、直接出展の交渉をする（数回）
10月下旬	出展の許可を得て、日時・場所が決まる
11月	
毎週水用	名大のしゃべらんち（ご飯食べながらのMTG）で話し合いを進めていく
毎週金曜	名市大のおしゃ（同上）で話し合いを進めていく
11月下旬～	集まって練習や準備を進めていく
12月1, 3	
12月4日	本番!!

●保健教育について

- ・テーマ：風邪予防
- ・テーマを選んだ理由：

風邪のシーズンだったため&わかりやすいテーマの方が人が集まると考えたため。
また、実施時間が 15:00～20:00 であったため、初めの方は小学生の子はいない？そして遅い時間はいるとしたら小学生ぐらいの子かな？ということになり、2種類保健教育を作りました。
が、当日、保健教育をできるほど人数が集まらず、保健教育はできませんでした!!!

- ・形式：(劇) 紙芝居 カルタ (実験) その他 ()
- ・内容：

3～5 歳用：お母さんと子どものやりとりによる風邪予防の劇。また、ダンスも考えた。ダンスでは「かぜ予防」と「かぜになっちゃたら??」という 2 番構成にした。初めにダンスを行い、劇ではダンスで出てきたことを復習していった。

小学生用：3つのパート「体のしくみ」「予防」「治療」に分けて、模型などを使って、体験・実感できる保健教育を目指した。

使ったもの（作成したものも含む）

3～5 歳用：



手洗いの手順↑

↑口のイラスト



↑くしゃみは何メートル飛ぶか示すために使用した

小学生用：



(左) 洗い残しが多いところを青く塗った手袋 (右) 咳やくしゃみの飛ぶ距離を体感する輪投げ

・説明の際、注意した言葉や表現

3～5 歳用

体操では、歌詞、ダンスがわかりやすくやりやすいものになるように、子供たち向けのダンスのビデオを参考に作成した。

劇は、場面転換がわかりやすいように、ナレーターがお面をかぶるなど工夫した。

また、キーワードが出るときはフリップを使い、文字でもわかるようにした。

小学生用

体のしくみは、内容が少し難しくなるので、模型を多く作った。

また、体験を多くして（わなげ、小さいな部屋の模型の中にいる菌を吹いて飛ばす、等）

・同じテーマの保健教育をやる大学へのアドバイス

今回は実際に保健教育をすることができなかったので、わかりませんが、実験や体験が多く、ダンスも良く考えられていたため、クオリティーは高かったと思います。今後どこかの実施の保健教育に使用する予定です。

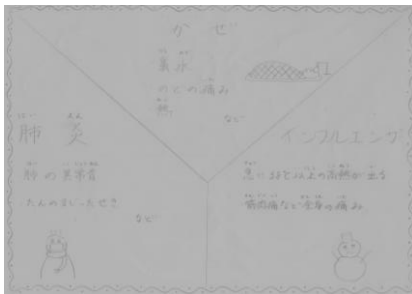
●ぬいぐるみ病院では無い活動（小児科活動、町のお医者さんなどはこちら）

- ・活動の名称：おいしやさん体験
- ・内容

子どもが医師、学生が患者と看護師になり、お医者さん体験を行った。

・前回からの改善点・工夫した点

- ・来る年齢層が分からなかったので、カルテを2種類用意した
- ・薬を選べるようにした
- ・フローチャートではなくした。下の写真参照



↑患者の主訴や、質問に対する答えから、診断につなげる

・今回の実施を受けての反省点と、それに対する改善策

- ・フローチャートではなく、選ぶ方式だったので、考える場面ができて良かった。
 - ×しかし、年齢によっては難しすぎたりもした。
 - また、症状が似ているものは迷ってしまった。
- ・薬を選べるのが好評だったので、今後も使っていきたい
- ・舌圧子を実際に学生の口に入れてしまった子がいた。
 - 学生が危なかったなので、今後注意を払いたい。

●その他

☆今回の実施の反省

「より多くの子ども達に健康の事に興味をもってほしい！」という思いから、大型ショッピングモールでの実施を企画しました。

初めての試みで、リサーチが不足していた事と、楽観的すぎたのが一番の反省です。具体的にいえば、とにかく人が来ない、通っても立ち寄らないです。

昨年の名大祭のイメージで、子ども達もきてくれるかなあと思っていたのですが、「なんの団体なんだ??」「怪しい団体では??」という目で見られてしまうし、時間帯的にも特に夜は、急いでる方も多く、立ち寄る方は少なかったです。

本当に学校と関係ないイベントは、学校の名の下(学祭とか)とのイベントとは、まったく違う!!ということを実感しました→学校名や、「公認だぞ」と言う事をもっと押し出せばよかったかもしれない。外の世界での実施(?)は宣伝が非常に大事です。

今後このようなイベントに挑戦する大学さんもあるかもしれませんが、宣伝とか、当日の人集めに、しっかり作戦を練っておかないと「怪しい団体」ぐらいに思われてしまうので注意してください。空氣的には、「あっ!学生さんがなにか頑張ってる!」ではなく「え?何なの?何の団体??近寄らんどこ!」です。

参考までに、なごやぬいぐるみが当日、宣伝用にやった事

- ・ 普段の活動を書いたポスター(写真付き)をはる
 - ・ 参加大学や、公認がでてる学校名を書いた紙をはっておく(学務に許可とってあります)
 - ・ みんなおそろいのTシャツを着る
 - ・ 人を呼び込みに行く
 - ・ 保健教育の道具を壁に貼る
 - ・ 問診道具を机の上に出しといて、通行する人が見れるようにする。子供用の白衣を広げておく
- でした。

やっておけばよかったと思う事は

- ・ 事前の徹底した宣伝
- ・ 「ぬいぐるみ病院とは?」というチラシの配布
- ・ ポスターや、活動写真の増量と拡大
- ・ 学校名押し出し
- ・ 立ち寄りやすい内容→問診は「ちょっと時間かかりそう...」と思われがちです。もっと、

さらっと寄りやすい工夫が必要でした。

- ・なごやぬいぐるみの知名度アップをして行くこと

ショッピングに来る人は、基本、立ち止まりません!!

立ち止まらない人が、チラッと見て、興味をもてるか。立ち止まろうと思えるか。

自分達のブースを客観的に見る事ができるかがとても大事かと思います。

あと、長期的な視点で言えば、ぬいぐるみの知名度をあげていくことが大事だと思いました。ぬいぐるみ病院の事を知っていたり、耳に挟んだ事があつたら、やっぱり興味とか関心が変わると思います。

あと追加で、少し今までとは違った反省を載せます。

- ・けっこう親御さんから医学に関する質問が来るので、上級生がいると心強いです。

今回は、四年生の先輩方が来てくださったのですごく助かりました。

- ・変な人も来ます。毅然とした対応を！今回は、大人の男の人が、女子学生に、「聴診器あててよ」みたいな感じで来ました。

ここまで反省ばかり書きましたが、

もちろん、やってよかったとすごく思っています!!!!

- ・来てくれた子、親はみんな「とても楽しかった！」と言ってくれました☆(→だからこそ、大事なのは宣伝と呼び込みなんです。)

・「私のブログに載せていいですか?」「今度うちの保育園で依頼するかも...」などなど、普段の保育園などの実施ではあまりない、新しい出会いがありました！また少しぬいぐるみの輪が広がったのかと感じます。

これで終わります。

質問等ございましたらご連絡ください。